

社会資本整備審議会道路分科会基本政策部会 中間とりまとめ概要（たたき台）【目次】

I. 今後の社会経済の展望

1. 本格的な人口減少、超高齢化社会、縮退する地域社会
2. 厳しい財政制約
3. 低炭素・循環型社会
4. 国際競争の激化と対アジア交流の重要性の増大
5. 国土の脆弱性の克服

II. 道路政策の現状認識と今後の転換の視点

1. 道路政策についての現状認識

- (1) 一定の量的ストックが形成、一定の政策効果
- (2) これまでの道路政策の課題
 - ①増大する自動車交通への対応を優先した政策展開
 - ②「使う」観点の欠如
 - ③道路管理者間や他分野との連携に課題

2. 道路政策の転換の視点

- (1) まちなかの道路をクルマ主役から多様な道路利用者が共存する空間へ
- (2) 「つくる」から「賢く使う」へ
- (3) 利用者ニーズの的確な反映、Check-Action 型の政策運営
- (4) 交通計画や地域計画の中での道路の役割・位置づけの明確化
- (5) 進化する道路

III. 具体施策の方向性

1. 道路の賢い使い方による多様な道路利用者の共存

- (1) 多様な道路利用者が共存する道路空間の形成
 - ①道路空間の再配分等による自転車走行空間、歩行空間の形成
 - ②生活道路における歩行者・自転車優先の徹底
 - ③「遅い交通」への対応等の多様な道路利用者の共存
 - ④ユニバーサルデザイン、無電柱化、通学路の整備等の連携
- (2) 効果的・効率的な交通事故対策の推進
- (3) 交通容量を阻害する要因の排除
 - ①路上駐車、路上工事による影響の最小化
 - ②沿道利用変化に伴う影響の最小化

2. 持続可能で戦略的な維持管理・更新

- (1) 道路ストックの長寿命化
- (2) 効率的な維持管理の実施

3. 道路が有する新たな価値の創造

- (1) 道路空間のオープン化・多機能化
 - ①道路の上下空間に建物を建設するための空間
 - ②たまり場としての空間
 - ③収益活動の場としての空間
 - ④公共空間としての機能向上
- (2) 新たな道文化の創造

4. 低炭素型の交通システム、道路空間のグリーン化 ～低炭素・循環型社会の実現に寄与する道路政策～

5. 防災も含めた国土の信頼性確保

- (1) 大規模広域災害への備え
 - ①道路網の防災・減災対策による国土・地域の耐災性の向上
 - ②発災後の的確な災害対応の実施
- (2) 豪雨災害に対する道路網の信頼性と安全性の確保
- (3) 様々な手段を効果的に活用した災害情報の提供

6. 基幹ネットワークの戦略的な整備・活用

(→高速道路あり方検討有識者委員会『中間とりまとめ』についての議論を踏まえ記載)

7. 道路政策を効率的に推進するための工夫

- (1) 道路の使い方についての合意形成手法や継続性のある計画制度等の充実
- (2) 利用者の意見を反映した政策運営の推進
 - ①道路利用者の視点に立ったニーズの把握
 - ②評価システムの充実
 - ③多様な主体との協働
- (3) 事業のスピードアップ
- (4) 技術開発・活用による品質の確保と道路の進化
 - ①ライフサイクルコスト(LCC)の最小化と道路の品質確保
 - ②技術開発と民間の技術力活用
 - ③ITS 技術の更なる進展
 - ④進化する乗り物への対応

8. 持続可能なシステムに向けた制度等の検討

- (1) 道路の利用を支える新たな枠組みの検討
- (2) 多様な資金調達、事業手法の検討
(→高速道路あり方検討有識者委員会『中間とりまとめ』についての議論を踏まえ記載)
 - ①持続可能で公正な高速道路料金制度への転換
 - ②道路課金制度の検討
 - ③PPP/PFIの積極的な導入